

令和 7 年度

看護学研究科（博士前期課程）

問題・出題の意図・解答のポイント

令和 6 年 8 月 31 日

高知県立大学大学院

小論文

問 自らの実践経験から、看護の専門性を継承する意義と方略について、あなたの考えを述べてください。

(100 点)

<出題の意図>

看護の専門性の継承は看護実践において重要な課題である。この設問により、看護の専門性の継承に関する専門的知識、看護実践に対する洞察力、論理性と抽象的思考力をみる。

<解答のポイント>

看護の専門性を継承する意義として、社会のニーズにこたえる安全・安心なケアの実現、ケアの基盤となる知の成熟について次世代の担い手に託すことなど、方略として、実践したケアについて言語化し話し合う場をもつこと、看護研究を通して新たな知を構築していくことなどについて、自分の考えを論理的に述べていること。

英語 高度実践看護師コース・研究コース

次の英文を読み、下記の質問に日本語で答えてください。

(100 点)

出典：Kuiper, RuthAnne, Pesut, Daniel J., Arms, Tamatha E.: PART I 4. Essentials of Care
Coordination Clinical Reasoning: *Clinical Reasoning and Care Coordination in Advanced
Practice Nursing*, Springer Publishing Company, 2016, p.75 より抜粋

<出題の意図>

大学院博士前期課程において必要となる基礎的な英文読解力と、設問の内容を的確に把握し解答する力をみる。

問1 看護者が行う臨床推論について、筆者はどのように述べていますか。要約してください。

(50 点)

<解答のポイント>

以下の内容を含んでいること。

- ・ケアマップやクリティカル・パスは、看護者の臨床推論に関する責任を免除するものではない
 - ・臨床推論は、標準的な計画がないときや、患者が予想される軌跡から逸脱したときに不可欠なものである
- など

問2 看護者が臨床推論の能力を高めるために、どのような取り組みが重要だと考えますか。英文の内容も参考にして、あなたの考えを述べてください。

(50 点)

<解答のポイント>

提示された英文も参考にして、自らの考えを述べていること。

英語 実践リーダーコース

次の英文を読み、下記の質問に日本語で答えてください。

(50 点)

出典: Dickinson, Jane K.: Guest Editorial. NURSING THEORIES NEED BETTER BRANDING, *Advances in Nursing Science*, 44(3), 2021, p.181 より抜粋

<出題の意図>

大学院博士前期課程において必要となる基礎的な英文読解力と、設問の内容を的確に把握し解答する力をみる。

問1 下線部を日本語に訳してください。

(20 点)

<解答のポイント>

文章を正しく捉えて、日本語に訳していること。

問2 看護独自の知識や理論を他専門職の人に知ってもらうためにはどのような取り組みが必要でしょうか。あなたの考えを述べてください。

(30 点)

<解答のポイント>

設問に対して、自らの考えを述べていること。

専門科目 がん看護学

問 1 がん患者の苦痛緩和における看護援助について、以下の 1)、2) に答えてください。

(100 点)

- 1) がん患者に苦痛をもたらす代表的な身体症状を 1 つとりあげ、症状出現の原因や要因について具体的に説明してください。
- 2) 上記の 1) でとりあげた症状のある患者への看護援助について、根拠とともに述べてください。

<出題の意図>

がん患者に苦痛をもたらす様々な症状を緩和することは、がん看護において重要である。この設問により、がん患者の苦痛緩和に関する専門的知識、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

- 問 1-1) がん患者に苦痛をもたらす代表的な身体症状（痛み、倦怠感、食欲不振、呼吸困難など）の原因や要因をがんの病態や治療の副作用、精神的ストレスなどの視点から具体的に説明していること。
- 問 1-2) 1) でとりあげた症状のある患者への看護援助について、症状のアセスメント、病態についての説明、症状緩和、教育的介入、薬物的介入のマネジメントなどを根拠とともに述べていること。

問 2 がん患者のヘルスリテラシーについて、以下の 1)、2) に答えてください。

(100 点)

- 1) がん患者のヘルスリテラシーの重要性について説明してください。
- 2) がん患者のヘルスリテラシーを高める支援において有用と考える概念を 1 つとりあげて、その概念を用いてどのような支援を行うかについて、具体的に述べてください。

<出題の意図>

がん患者や家族がその人らしい治療や療養生活の選択や意思決定を行うために、ヘル

スリテラシーを高める支援は重要である。この設問により、がん患者のヘルスリテラシーに関する専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

問2-1) がん患者のヘルスリテラシーの重要性（健康状態の維持、適切な情報選択、不確実性の緩和など）について説明していること。

問2-2) 有用と考える概念（情報探索力、意思決定、健康教育など）を1つとりあげて、その概念を用いて、どのような支援を行うかについて、具体的に述べていること。

専門科目 小児看護学

問1 学童期の子どもの症状マネジメントについて、以下の1)、2)に答えてください。

(130点)

- 1) 学童期の子どもが捉える症状の体験について、理論や概念を1つとりあげて説明してください。
- 2) 上記の1)をふまえて、学童期の子どもが自ら症状マネジメントに取り組む意義を根拠とともに述べてください。

<出題の意図>

学童期の子どもの症状マネジメントにおいて、子どもが捉える症状の体験を理解し、子どもの主体的な症状マネジメントを支える看護援助を実践することは、小児看護の重要な課題である。この設問により、学童期の子どもの症状マネジメントへの看護に関する専門的知識、分析力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

- 問1-1) 学童期の子どもが捉える症状の体験について、理論（自我発達理論や認知発達理論など）や概念（ストレス、コントロール感の喪失など）を用いて説明していること。
- 問1-2) 上記の1)をふまえて、子どもが主体となって症状マネジメントに取り組む意義について、症状や症状に伴う苦痛を子どもが自ら緩和・取り除くセルフケア能力を高めることができる、自らの身体を守る意識を高め病気・症状とともに生きる主体となっていくことができる、など根拠とともに述べていること。

問2 次の事例を読んで、あなたが重要であると考える子どもの家族への看護援助を1つとりあげて、根拠とともに述べてください。

(70点)

Aさん（5歳、男児）は鼠径ヘルニアの手術目的で短期入院（1泊2日）を行う予定です。本日は外来受診でAさんと母親が来院しました。母親は、Aさんへの手術前の検査や手術に関する説明について、看護師に以下のように話しています。

「Aはとても怖がりな性格だねって夫とも話をしている。手術と言うとわからないことだらけで、もっと怖い思いをするんじゃないかってすごく心配です。私も手術と聞くと怖くてたまらない気持ちになりますし。入院するときは“病院にお泊りして、寝て過ごしたらおなかが元気になる”と話そうかと思うのですが…。そういう話を夫にすると、夫はAが怖くてもしなくてはならない手術なのだから、はっきり言ったらいいって言うんです。けれど、自分は仕事だからAに言うのは私みたいな感じで…。やっぱり、Aを元気に産んであげられなかった…元気に産んでいたらAが怖い思いも、痛い思いもすることなく過ごせたのに…そう思うと胸が苦しくなります。」

<出題の意図>

手術目的で短期入院となる子どもをもつ家族の体験を理解し、看護を実践することは重要である。この設問により、手術目的で短期入院となる子どもの家族の看護に関する専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

子どもの家族への看護援助として、子どもに対して罪悪感を抱く母親の情緒的支援を行う、両親が子どもの理解を促すような説明をすることができるように教育的支援を行う、など根拠とともに述べていること。

専門科目 精神看護学

問1 摂食障害の患者について、以下の1)、2)に答えてください。

(100点)

- 1) 拒食や過食嘔吐を繰り返す摂食障害の患者の体験について、概念を2つとりあげて、具体的に説明してください。
- 2) 上記の1)をふまえ、摂食障害の患者への看護援助について、具体的に述べてください。

<出題の意図>

拒食や過食嘔吐を繰り返す摂食障害の患者の体験を理解し、それをふまえたケアを行うことは重要である。この設問により、摂食障害の患者の体験と看護援助に関する専門的知識、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

- 問1-1) 拒食や過食嘔吐を繰り返す摂食障害の患者の体験について、否認、こだわり、孤独などから2つとりあげて、具体的に説明していること。
- 問1-2) 1)をふまえ、感情や思いの表出を促す、葛藤を理解し無理に食行動改善をさせない、治療に伴う身体の変化に対する不安に対応する、自助グループにつなぐ、などの摂食障害の患者への看護援助について、具体的に述べていること。

問2 次の事例を読み、Aさんの退院に向けて必要な看護援助を2つあげ、根拠とともに具体的に述べてください。

(100点)

Aさん(40代、男性、統合失調症)は10代で発症し、今回が13回目の入院である。1年前の退院後からグループホームに入居し、デイケアと訪問看護を利用していた。病状は安定していたが、新たな入居者との些細なトラブルをきっかけに調子を崩し、被害妄想、不眠、入居者への暴言、器物損壊があり入院に至った。入院6ヶ月目の現在、妄想はあるが行動が左右されることはなく、同室患者とのトラブルも起きていない。作業療法には毎日参加し、活動と休息のリズムは保てている。今後、高齢の親との同居、入院前のグループホームへの再入居は難しい状況である。

＜出題の意図＞

再発を繰り返し慢性化している統合失調症の患者に対して、症状の安定と地域生活への移行に向けて看護援助を行うことは重要である。この設問により、慢性化している患者の退院に向けて必要な看護援助に関する専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

＜解答のポイント＞

Aさんへの看護援助として、地域生活に対する意向や希望の確認、症状の悪化に影響する要因の振り返り、地域の支援機関との連携などから2つあげ、根拠とともに具体的に述べていること。

専門科目 家族看護学

問1 次の事例を読み、以下の1)、2)に答えてください。

(100点)

A氏(82歳、男性)は、8年前脳梗塞を発症し軽度の右不全麻痺が残ったが、妻(80歳)と二人で自宅に暮らし、週に数回は電動シニアカーで外出するなど活動的に過ごしていた。近くに長男夫婦(50代)が住んでいるが、共働きのため、月1回様子を見に来る程度のかかわりであった。ある日、A氏が自宅で嘔吐した後、呼びかけに反応しなくなったため、妻が慌てて救急車を呼び、病院に搬送された。検査の結果、慢性硬膜下血腫と診断され、緊急入院・緊急手術となった。妻はうなだれて「ここ数日、物忘れがひどくなって、身体の動きも悪くなっていたから、なんとなく気になっていたけど、こんな大変なことになるとは思わなかった。もっと早く病院に連れて行けばよかった。」としきりに言っている。夜になって長男も病院に駆けつけた。長男は、「どうしてこんなことになったんだ。一緒に住んでいて何も気づかなかったのか。早く連絡をくれれば、俺たちも様子を見に行ったのに。」「親父があちこち出かけるからこんなことになるんだ。」とまくし立てるように言い、A氏の妻はただ黙ってそれを聞いている。

- 1) A氏の妻と長男の体験について、1つの概念または理論を用いて説明してください。
- 2) 上記の1)をふまえて、この家族全体に対してどのような看護援助を行うか、根拠とともに具体的に述べてください。

<出題の意図>

家族員の予期せぬ病気に直面した家族の体験や、心理的動揺が家族にもたらす影響を把握したうえで、家族員個々および家族全体を視野に入れて支援することが重要である。この設問により、このような状況にある家族への看護に関する専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

- 問1-1) A氏の妻と長男の体験について、概念または理論(自責感、家族ストレス対処など)を用いて説明していること。
- 問1-2) 1)をふまえて、各家族員の思いを個別に聞き感情の表出を促す、家族員の立場による反応の違いに配慮しながら相互理解を促す、などの看護援助について、根拠とともに具体的に述べていること。

問2 必要な療養行動を行うことができず入退院を繰り返す患者とその家族への援助について、以下の1)、2)に答えてください。

(100点)

1) このような家族に対する援助目標を1つあげて、説明してください。

2) 上記の1)をふまえて、このような家族に対する看護援助を具体的に述べてください。

<出題の意図>

必要な療養行動を行うことができず入退院を繰り返す患者とその家族への援助は、家族システム全体をとらえた視点から考えることが重要である。この設問により、このような状況にある家族に関する専門的知識、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

問1-1) 患者個人だけでなく、家族システム全体をとらえた視点から援助目標をあげて説明していること。

問1-2) 1)をふまえて、このような家族への看護援助について、具体的に述べていること。

専門科目・母性看護学

問1 Women-Centered Care を必要とする事例をあげて、Women-Centered Care の視点に基づいた支援について具体的に述べてください。

(100 点)

<出題の意図>

Women-Centered Care は、女性の総合的な well-being を目標としており、母性看護において重要である。この設問により、Women-Centered Care に関する専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

取りあげた事例について、Women-Centered Care の視点（尊重、安全、ホリスティック、パートナーシップ）に基づき、女性の権利擁護、価値観を尊重したケア、共同意思決定の支援などについて、具体的に述べていること。

問2 妊娠期の生理的変化に伴う不快症状（マイナートラブル）への看護援助について、以下の1）と2）に答えてください。

(100 点)

1) 妊娠期にみられる不快症状（マイナートラブル）を2つあげて、その原因について説明してください。

2) 上記の1）であげた不快症状（マイナートラブル）に対する看護援助について、根拠とともに説明してください。

<出題の意図>

妊娠期の生理的変化により妊婦はさまざまな不快症状（マイナートラブル）を経験する。看護者は、妊婦の状態が生理的変化の範囲か異常所見かを判断した上で、母児に安全な方法で、かつ、不快症状を緩和する方法を選択し、提供する必要がある。この設問により、妊娠期の不快症状に対する看護援助の専門的知識、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

問2-1) 妊娠期の不快症状（マイナートラブル）として、つわり、便秘、腰背部痛などをあげ、その原因について、妊娠維持のためのホルモン量の変化、胎児および胎児付属物の成長に伴う全身への影響、妊娠に伴う生活習慣の変

化などを説明していること。

問2-2) 不快症状（マイナートラブル）のある妊婦への看護援助として、症状の緩和、セルフケアへの支援などを根拠とともに具体的に述べていること。

専門科目 看護管理学

問1 看護職のキャリア開発について、以下の1)、2)に答えてください。

(100点)

- 1) 看護職自らのキャリア開発の具体的な手法を1つあげ、その目的と特徴を説明してください。
- 2) 上記の1)の内容をふまえて、看護職のキャリア開発における管理者の役割について、あなたの考えを述べてください。

<出題の意図>

看護職のキャリア開発について理解することは、看護管理学において重要である。この設問により、看護職のキャリア開発に関する専門的知識、分析力、看護実践能力、論理的思考力をみる。

<解答のポイント>

- 問1-1) 看護職自らのキャリア開発の具体的な手法として、キャリアパス、キャリアプランニングなどをあげ、その目的と特徴について説明していること。
- 問1-2) 1)をふまえて、管理者の役割として、看護職一人ひとりのニーズを尊重した上で、個人と組織のニーズの折り合いをつけていくための具体的な労働環境の整備や精神的な支援の仕組み創りなどについて、自らの考えを述べていること。

問2 わが国における社会保障制度の現状と課題を説明し、その中から看護職として取り組むことができる課題を1つとりあげ、課題解決にむけた方略について、あなたの考えを述べてください。

(100点)

<出題の意図>

わが国の社会保障制度を医療と介護を含めた視点で俯瞰し、看護の立場で考えることは重要である。この設問により、社会保障制度に関する専門的知識、分析力、論理的思考力をみる。

＜解答のポイント＞

わが国の社会保障制度の現状と課題として、少子高齢化に対応するために医療と介護が別のシステムで運用されていること、それぞれの制度の連携が重要であることなどを説明し、とりあげた課題について、看護の立場での方略として、医療と介護の連携、多職種連携、地域全体を視野にいたした看護サービス提供システムの構築などについて、自らの考えを述べていること。